

懐かしの黒菱山荘をいつまでも

足立(旧姓 寺尾) 美智子
(高三十六回)

それは、去年の夏の終わりに一通のハガキが家に届いたことから始まりました。石神井高校を卒業してから、早十数年の年月が経っていました。そのハガキは、三十六回生で黒菱山荘に行った事のある人宛のハガキで「久しぶりに黒菱山荘に行ってみませんか？」という内容でした。すぐに、高校生の頃、やはり山荘に魅了されていた友人へ連絡を取り、一緒に出かける事にしました。彼女と連絡を取ったのも、本当に久しぶり。山荘に行くなんて、何年ぶりだったことでしょうか。(こんなにわくわくする事なんて、最近あったかしら?)

ちょうど、山荘に行く頃は、紅葉の季節でした。集まった人数は、全部で十五人程度でしたが、卒業以来の人がほとんどで、本当に懐かしかったです。長野オリンピック効果で、高速道路も伸び、道も良くなり、白馬まで四時間からずして到着しました。山道を車で登って行きましたが、冬山しか知らない私にとっては、全く見覚えのない景色でした。でも、あの黄色い屋根が見えてきたとき、何とも言葉では言い表せない思いで、胸がいっぱいになりました。中にはいると、昔、毎年のように行ったスキー教室の思い出に、花が咲きました。トイレ掃除の

OB・OGの事、飯炊きの事、いろんなゲームの事、山の歌の事、等々。昔、各部屋毎に書いていた感想ノートも大切に保管されていて、自分たちが昔書いたものを見つけては、恥ずかしいやら面白いや



36 回生 黒菱同期ツアー

平成10年度 黒菱山荘委員会 年間スケジュール

平成10年

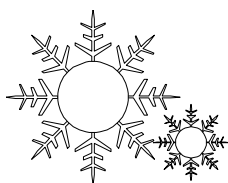
- 4月上旬～5月上旬 春の入荘(運営管理)
 5月17日 黒菱山荘委員会総会&懇親会
 5月下旬 春の準備会
 黒菱山寮協議会
 6月～7月 父母と教師の会「山荘で星を見る会」
 7月下旬～8月上旬 高校生を含めた夏山トレッキング
 (個人参加)
 8月中旬 夏の入荘(運営開始)
 山荘メンテナンス業務
 9月中旬 石神井高校文化祭出展参加
 10月下旬 秋の準備会
 黒菱山寮協議会
 12月下旬～翌年1月 冬の入荘(運営管理)

平成11年

- 2月下旬 スキーツアー(一般参加)
 3月下旬 石神井卒業生を対象にしたスキー教室
 (3泊4日)

黒菱山荘

所在 長野県北安曇郡白馬村黒菱
 標高 約1500m
 建築 1961年 千賀可一氏設計
 電話 0231-72-6546



ら、いつのまにかみんなが一つになっていました。山荘には、そういう不思議な力がありました。たくさんの方たちの思い出を、そのまま残してくれている場所でした。一緒に行ったメンバーも、決して全員が良く知っている仲良しではなかったのに、確かにみんながひとつになっていました。暖かいぬくもりのある場所なのです。きっと、誰が行っても誰が行っても同じ気持ちをもってののではないのでしょうか。

保母先生ありがとうございます
 保母先生は初任時から体育科の教員として一九八五年まで本校に勤務されました。その後富士高校で活躍後、昨年の三月で退職されました。退職後は武蔵野北高校で嘱託員として勤務されています。
 昨年十一月三十日に、黒菱山荘を通じて保母先生にお世話になった人々の声かけで、約四十名が新宿モノリスに集い、保母先生の退職をお祝いしました。山荘の古い仲間と久しぶりに顔を合わせ、予定の三時間はあつという間に過ぎてしまいました。保母先生も相変わらずお元気で、お話しをするとあの保母節が随所にあり、ふっと二十年前にタイムスリップしたように感じました。

白馬山麓・山のプチホテル

GROVE INN

skala

石田 弘行(高校16回) 山岳部・山荘OB
 白馬村山案内人組合所属
 美和(高校22回・旧姓金井) ESS・山荘OG
 〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村みそら野
 phone 0261-72-4325



新宿モノリスでの楽しいひとこま



己最低。ゴールの快感は
て制限タイム内で滑り
込みセーフ。タイムは自
己最低。ゴールの快感は

七十才目前のフルマラソン

田村典夫(中学二回)
同窓会校歌祭実行委員長

同窓生からの お便り ・近況報告



同じである。ベストは尽くし、己をみつめた納得できるレースであった。終了後、体調も益々好調。レース後送られてきた記録集をふと見ていていたら、参加者の年齢で私がトップ・六十九才。四ヶ月後の六月には七十才。早いものである。

人生は何事も充分なる注意は肝要だが、物事を恐れてはならぬという事を改めて教えられた現在である。中学時代の体力証検定二千メートルレースでは、何時も二位(タイムは上級)。…トップにはなれぬ男より。

(現・東京陸上競技協会理事)

きずな」に寄せる

河野公一(高十四回)

入学した時が「ホース」で、卒業した時が「タコ」だったと言っても、べつに漫談のネタでもなく、私の在学中の担任であった星野先生と寺島先生のアダナですが、両先生とも未だご健在でしょうか。石神井を卒業し既に三十数年が経過し、その間の私の人生も実に波乱に満ちたものでした。大学卒業後入社した情報会社の初の海外出張で、最初の訪問地であった西ドイツ(一九六九年当時)のミュンヘンで、とあるクラブに立ち寄り、出張旅費として所持していた全財産の五〇〇ドルをすっかりむしり取られて、残りのスケジュールの諸経費は提携先の事務所に立て替えてもらい、這う這うの体で帰国した苦い経験。家を新築した直後の大阪転勤、また多数の犠牲者が出た阪神大震災の数ヶ月前に東京勤務に復帰と言った、実にめまぐるしい生活でした。最近では、トレーニングを終えて車で帰宅の途中、信号待ちで後方から物凄い勢いで追突され、しかも前方のタクシーも巻き込み、車は大破したものの軽いムチ打ちで命拾いをし現在に至っております。

仕事面では、月曜から金曜は翻訳会社の営業責任者として都内一円を動き回ってますし、週末はボランティアで小・中学生を対象とした「子供ト

ランボリン教室」の指導、コーチをしております。私自身も群馬県で開催された「全日本トランポリン・シャトル競技大会」に東京代表の一員として参加し、常勝の石川県チームを破り、決勝で栃木チームと接戦の末、惜しくも準優勝に終わりましたが、全国大会で表彰台に立てたことが、非常に印象的な出来事でした。石神井時代からクラブ活動(陸上競技部)で、私よりも体力的に恵まれていた、柿島、原、大沢といった同期生と競ったせいか、大病もせず今でも仕事に遊びに全力投球とはいきませんが、マイペースで挑んでおります。同期の皆さん連絡を。

日本ビジネス翻訳(株)

電話〇三(五五六一)三九〇一

近況報告

大泉珠子 旧姓・岩元
(高十回)

一九八一年現住所に居を定めた時、近所に「のはら文庫」と看板を掛けて、子ども達が入り出す小屋風の小さな家がありました。我が家の子供も行って本を借りて来ました。

聞くと、近所のお母さん達五、六人が不要の本を持ち寄り、貸し出しを始めたものでした。文庫を開いて三年目でした。その内資金集めのバザーに協力したり、土曜日の貸し出し係も担当するようになりました。八十四年三月、文庫活動の創設以来、中心となって活躍してきた方が、後を託して郊外へ移り住んでしまわれたのです。

我が家の子供たちは中高生となり、文庫へは顔も出さなくなっていたのですが、なぜか引き受ける羽目になったのです。八十五年からは「仙台手をつなぐ文庫の会」の運営委員としての仕事もしました。仕事というより、文庫の会で行う「子どもの本の勉強会」に出席したり、文庫間の交流会に参加、情報交換したりで六年間関わっていまし

た。

現在「のはら文庫」は、生協の集会所に本棚を置かせてもらい、毎週水曜日の午後二時から開いています。蔵書数は約千八百冊、内市民図書館から二百五十冊借用しています。図書館からは五百冊まで借りることができ、二ヶ月毎に図書館の書庫へ行き選書して、配本してもらいます。今も貸し出し係として、小さな子ども達と若いお母さん達に、喜ばれる良い本を手渡したいもの、頑張っています。後を引き継ぐ熱心なお母さんがあらわれて、嬉しい限りです。

今年一月、絵本作家のさとうきこさんの講演を聞く機会がありました。『いそがしいよる』『すいかのたね』『どろんこおそうじ』『よもぎだんご』『やまのぼり』『せんたくかあちゃん』等々……最後にくすくす笑える楽しい絵本を沢山描いています。

さとうさんは、岡谷市に「小さな絵本美術館」を夫君と運営しています。今秋、美術館ではスイスの絵本作家、フェリックス・ホフマンの原画展を開く予定で、スイスには何度か足を運んだとのこと。次回は六月に行くことになっている、ついでには、ツアールに一緒にしませんか? と呼び掛けがありました。

ホフマンはグリム童話の『おおかみと七ひきのこやぎ』『ねむりひめ』『ながいかみのラプンツェル』『七わのからす』等の絵本を描いています。またスイスアルプスの村を舞台に、子どものそり大会や鈴行列のお祭りを描いたカリジェには『大雪』『ウルスリのすず』『フルリーナと山の鳥』等の絵本もあります。

彼等は絵本ばかりでなく、壁画やステンドグラスを残しています。

「スイスアルプスと絵本の旅」タイトルを見て、俄然こころ惹かれ、家族の了承を取り付けて、申し込みました。

今は、旅行案内のあちこちを開いて、フリータイムにどこの山麓ハイキングができるか? 早起

きして、どこを歩けば良いか? 想い巡らせては
楽しい時間を過ごしています。

桜の季節によせて

伊藤まさ子 (旧姓 嶋崎)

(高二十七回)

毎年、桜の花が咲く頃になると想い出すのは、卒業と入学という学校生活の季節。「高校生活」は特に思い出多き私の大切なアルバムの一ページ……

高校を卒業しすでに二十年以上経ちます。先日、三年間通い続けた学びやの道を辿る機会に恵まれました。まわりの風景は大きく変わり、年月の長さを感じます。母校を懐かしく思い、かつての学生生活が走馬燈のように私の眼に映し出されます。

私の娘もそろそろ高校生になる年頃になりました。友人のこと、先生のことなど、娘の話聞く機会が多くなりました。時代は変わっても同じ悩みを持つ一人の女性として成長していく娘に「ドキン」とする今日この頃です。さて、今年は私も母親として娘の高校受験を体験する年になりました。家族全員で「喜怒哀楽」を楽しめる年にしたいものです。

「石吹」OB・OG集合せよ!

木村好一 (高二十四回)

同窓会誌上を拝借して「石吹」関係者のみなさんにご連絡します。「石吹」って何だ? どう読んだらいいんだ? ……同窓生のみなさんにはたいへん申し訳ありません。「石吹」は「いしぶき」と読んでください。「石神井高校吹奏楽部」の超略称なのです。

「石吹」史は、伝統あるほかのクラブと比べれば、それほど長いものではありません。創部は、一九六八年です。初めのうちは、父母と教師の会の機関でした。一九八八年には部員数一〇〇名近くを擁し、石神井生の一割が「石吹」メンバーであった時

代もあるのです。質的にも量的にも、都立高校の吹奏楽部としては、ハイレベルの活動を続けてきました。学校内の行事はもちろん、さまざまな学校外のイベントにも積極的に取り組んで、成果をあげました。石神井高校創立五〇周年にあたって、重責を果たしました。

しかしながら、いま「石吹」は、ちょっと危機的な状況にあるようです。わが国の少子化の波が、どのクラブにも影響を与えているのしょうが、「石吹」に押し寄せているようです。どのクラブでも同じかも知れませんが、メンバーの確保がたいへん困難なようです。ハーモニーをつくりあげるための最低限の編成をとることすらむずかしくなっているというのが現状のようです。歴代の顧問のご尽力などがあって、とても充実した楽器などの設備があるのに、それらを有効に機能させることができないと聞きます。メンバーのトレーニングについても、一時期ほどの系統性や合理性を見ることができないそうです。

「石吹」OB・OGのみなさん。ぜひ、母校へ足を運んでください。現役「石吹」メンバーに声をかけてあげてください。きたる五月三十一日(日)は、石神井高校の体育祭が予定されています。いろいろな力を寄せあつて現役たちを応援しようではありませんか。

「石吹」OB・OGのみなさん、思い出起こしてください。応援団やマスコットなどの「団活」をガマンしてファンファーレや行進曲の練習をしたことを。体育祭鼓隊もカッコよかったけれど、「石吹」もがんばりました。もし、「石吹」の吹奏楽の響きが聞こえなかったら、体育祭は、きつと寂しいものになつていたにちがひありません。当面、現役「石吹」は、「ラデツキー行進曲」と「旧友」を演奏する予定です。

体育祭に参加できなかった人は、六月十三日(土)の同窓会に集まりましょう。具体的なプランがあるわけではないのですが、ひさびさに音を出すことができるかもしれません。体育祭にも同窓会に

も都合がつかなかった人は、なんとか時間をやり繰りして、「石吹」のなつかしい部室(音楽準備室)をのぞいてみようではありませんか。

可能な限り、また「石吹」メンバーとして音を出す機会を共有しようではありませんか。「校歌祭」というのもあり、参加団体のなかには、吹奏楽部が伴奏しているところもあるようです。企画・参加してみませんか。とにかく集合してください。

軟式テニス部OB会を!

「〇〇から二十五周年、結成三十周年……」。石神井に入学して今年二十五周年なんだと意外なところで気が付いた。そう、当時流行った音楽がLPジャケット仕様のCD企画で発売される等、あの頃のものさがさりげにブームになっているからだった。

石神井に入学した昭和四十八年は、石油ショック直前、アイドルブーム&フォークブーム。巨人はV9で相撲は輪島、映画の日本沈没が大ヒット。あれから二十五年の間に、レコードと8ミリはCDとVTRになった。ワープロやパソコン、今のコンピュータゲームの普及なんて誰も考えてなかったらう。

さて現在。ビッグバンとか、私が身を置く放送界ではマルチメディアとか、世の中は便利を越えて慌ただしくなっている。しかも、人々が消化しきる前に、次々と飛び出してくるから、どこか不安で落ち着かない。だから不易と流行を見極めてやろうと思っている。

そんな日々の流れの中、ふと振り返ってみると石神井高校時代はVTRのように、時として音まで伴って蘇ってくる。高三の時に作ったバカな集団の仲間、横の繋がりの強みで今でも自然と集まれるが、所属していた軟式テニス部(今はソフトテニスというらしい)の先輩+後輩という縦のラインのVTRはなかなか再生できなかった。

印象深い三年間を過ごせた私のような者を石神井は沢山輩出するらしい。ちょうど五年前、三十三回の中谷内君が、「OB会を復興させたい」と提案してきた。「まずは名簿を作ろう」と同窓会名簿に広告も載せて、当初は連絡もいたいたが、名簿作成の情報(連絡先)が増えないので、未だ総会に至っていない。同窓会名簿の広告に気づけなかった方もいるに違いない。改めて、軟式テニス部のOB・OGの方は是非とも暫定事務局の我々にご連絡を!

連絡先

〒一五四一〇〇〇 一田谷区池尻二の三三の一五
の二〇四 中谷内雅之 (高三十三回)
〒一七六一〇〇〇五 練馬区旭丘一の六四の一
(勤務先) TOKYO FM 〇三(三三二) 〇
〇八〇 横山茂 (高二十八回) まで

※軟式テニス部以外の、これを見て「おっ」と思ったアナタのご連絡もお待ちしております。あの日の風に吹かれて見たと思うのは私だけではないでしょう。

横山 (自宅) 〇三(三九五三) 〇三〇一

CLASSIC CATALOGUE

Classic Catalog は、演奏家が参加し
創り上げる、クラシック専門のCDレーベルです。

Classic Catalog CD Shopは、世界中をターゲットにした、クラシック音楽のバーチャル(仮想)レコード店。インターネットだけでなく、カタログによる通販システムが利用できます

(CD Shop <http://www.jjs.co.jp/cc/shop>)

Classic Catalogレーベルは、極少数枚数から作成できる、革新的なCD制作システムです。これまでは難しかった、稀少曲や長大なコンサートプログラムなどのリリースを可能にしました。多彩な制作形態を用意しております。ぜひ資料をご請求ください。

お問い合わせ:

03-5216-7346 F&F Classicカタログ部門

同期会報告 ・お知らせ

昨年から今年にかけて開催された、同期会・クラス会の報告と、これから予定している会のお知らせです。お問い合わせは、それぞれの期の幹事の方へ、直接お願いします。

中学四回、高校一回路

同期会を開催

同期会幹事 宇野隆之(高一回)

私も中学四回生(高校一回路)は十年ぶりに同期会を竹橋会館で昨年(一九九七年)五月二十七日に開催しました。当日は全体で百十名中四十五名出席で、大変賑やかな会になりました。

石神井高校創立五十周年の記念式典の報告や先生方の消息、名簿の発行の状況を報告の後、二時間ほど楽しく歓談しました。

考えてみると一九四八年三月の卒業以来、ほぼ五十年ぶりに初めて会う仲間もいて、名札を見なければ分からない状況もありました。我々は、一九四三年に中学へ入学、その後、中学二回(一九四四年)から学徒動員で、中島飛行機三鷹やシチズン時計田無へ行き、中学三年(一九四五年)で中島飛行機浅川へ移動の後、終戦、中学四年まで充分な教科書もない時代でした。入学時五組二百名は居た学生も、戦後の疎開で現在住所の分かっていない者百十名の状態です。数年前、社用で八王子の沖電気工業の工場へ行き、そこで聞いたところでは浅川(現在の高尾)の中島飛行機製作

所の我々が作業をしていた横穴防空壕がほとばしの観光名所になっているとのこと。

今回は全体の同窓会名簿には載っていない友人の参加申し込みが数名あり、二・三年後には再度開催の要望が出るかも知れませんが、詳細は未定です。同期生の情報を是非お寄せください。

〒二六九一〇〇
七五 新宿区高
田馬場四の二の二十九 宇野 隆之

田馬場四の二の二十九 宇野 隆之

高校五回 昭和二十八年

同期会を開催

庄司逸雄(高五回)

今年四月二十五日午後五時三十分過ぎ、都内某レストランに中年(初老?)の紳士、淑女十五名が集まった。

集まった者達は石神井高校第五期卒業の有志であった。頭の禿げた人、白髪が美しい人、会うなり一目で「おまえは○○だろ」とか「あなたは××でしよう」とお互いに方を叩きあうものもあれば、名前を名乗られてはじめて「ああそだったのか」と納得する者同士もいる。何しろ卒業してから四十五年たつたのだから無理もない。それでも、もの十分も経たないうちに各人はすっかり石神井のパンカラ



生徒と女学生になりきってしまっていた。汚れほうだ

いに汚れた教室の壁にみんなでペンキを塗ってなんとか教室らしくした。壁の板をはがしてストーブで燃やして焼き

芋を焼いたこと、運動会でクラス全員参加の仮装行列で本部席の先生連中を驚かしたと、授業半分であとは軍歌や寮歌を存分に歌ってくださった先生のこと、水芭蕉の咲く尾瀬についてロマンチックに語られる先生のこと、武蔵関公園の池のほとりで、鬼に角いろいろ面白い話に花が咲き、それぞれが青春に立ち返って、時間の経つのも忘れて過ごした数時間であった。

やがて許された時間も過ぎ、「またきつと会おうよ」、「それまでみんな元気かいようよ」と言い交わしながら、手に手を取って固い握手をし、深夜の道路についた。

この会は、決まったメンバーで決まった期間をおいて集まったというものではない。ただ、石神井高校を卒業して以来、社会に出た後も、お互いに年賀状を交わし合っていた者達が、「一度お互いに顔を会わせたいものだ」ということでそれが実ったというわけなのだ。だから次に何時会うのか、いつ会えるのか、何も分かっている。

「石神井」に学んだお互い同士が交わっていた年賀状が、「きずな」になっていたことだけは事実であった。



高校六回 昭和二十九年 同期会

成富峯男(高六回)

● 昨年の会合から

平成九年度は、七月五日土曜日、西武新宿線下井草駅近くの「ビックスタジオ」七階のホールで開催し、恩師かなお先生を囲み五十名程が集まりました。この数年は毎年七月の第一土曜日に集まっており、今年も後で述べますように来る七月四日土曜日を予定しております。実は昨年は集合写真もスナップも撮りませんでしたので、ここに載せた写真は一昨年のもです。この時は寺島先生にもおいで頂きました。

● 今年の会合案内

本年平成十年は、先にも述べましたように、七月四日土曜日午後四時から七時まで開催の予定です。会場は、西武新宿線鷺宮駅北口から徒歩一分、三和銀行の角をまがって十メートルの「西方味市場」です。(所在：中野区鷺宮三の十八の九 電話：〇三(三三三〇)一一五九)



同期の方々には、各クラスの幹事からご案内することになっておりますが、万一行き違いがあつてお手元に連絡がない場合には、成富(電話：〇三(三三八五)三三八三)までお問い合わせください。



同期会開催の予告 高校十六回生 昭和三十九年卒) 集合!

平成六年十一月二十日吉祥寺で行われた前回の同期会から四年を迎えようとしています。

我々十六回生も卒業以来三十余年の月日が流れ、爺婆と言われても可笑しくない年齢となりつつあります。(現実に爺婆の方も「ちらほら」いらっしゃるようです)

さて、前回の同期会の時に決定した通り、本年は第四回目の同期会を開催する年となりました。まだ場所や日時は決まっていますが、前回同様多数の方のご出席を頂きたく、貴重な紙面をお借りして予めお知らせさせて頂きます。

前回は恩師のご出席も頂けて盛大な会を開くことができたが、今回も又前回にも増した盛大な会が開催できればと考えます。懐かしい友と顔を会わせ、青春時代に戻って楽しい一時を過ごしたいものです。

できるだけ多くの方に出席頂きたく、住所の変わられた方、前回連絡の取れ無かった方、そうした方をご存知の方は一報いただければ幸いです。

尚、同期会の詳しい内容につきましては、後日(九月頃)連絡させていただきます。

同期会幹事一同

連絡先 〒一六五一〇〇三三 東京都中野区若宮

二の二の二の六 吉澤 敏也

電話〇三(三八二二)二八三八(自宅)

〇三(三八三九)二五三八(会社・直)

FAX 〇三(三八三九)二五三八

高校十八回生 昭和四十一年卒)

同期会開催に向けて

昨年、本誌上をお借りして高校十八回生の同窓会への参加を呼びかけましたところ、軟式テニス部のOB会からの合流組を含めて、三十数名の参加を得ることができました。

当日は、目印になるように高校十八回生のコーナリを設置してもらい、超豪華なビュッフェ、飲みきれないほどのドリンクを前に、飲み、食べ、石神井で過ごした青春の一時期の思い出話に、近況報告にと、時間のたつのも忘れるほどでした。最後にはステージ横に同期生全員が並び、おそろく何十年ぶりかで歌う校歌の合唱の輪に加わりました。終了後も近くのレストランでの二次会でもまた盛り上がり続けた一日でした。



我々十八回生は、同期会というものを開いたことが無かったと思いますが、「そろそろ同期会を開こう」という声も数多くありました。節目という意味では、二〇〇一年が卒業三十五周年に当たりますが、とりあえずは今年が「入学三十五周年」になりますので、是非多くの同期生に参加していただき、同期会開催に向けての第一歩としたいと思います。

高校十八回生の皆さん!

久しぶりに母校を訪ねてみませんか? そしてわずかな時間ですが、懐かしい青春時代へタイムスリップしてみませんか。

(高校十八回 鶴飼 明弘)

高校二十回 昭和四十三年卒)

同期会開催のお知らせ

二十回生の皆さん!

早いもので、母校石神井高校を卒業し、三十年がたちました。オイルショック、バブルなど激動の日本社会を体験し、昨今の不況で厳しい世代ではあります。それは別にして、一同に集まって卒業三十周年を記念し全クラス参加により、下記の通り、同期会を開催いたしますので多数のご参加をお待ちしています。(写真は昨年の同窓会懇親会)



開催日時 平成十年七月五日(日)

午後〇時三十分から

会場 九段会館(千代田区九段南一)の六の五

電話〇三(三三六二)五五二二

会費 八千円程度

※詳しいご案内は別途郵送します。

発起人代表 高橋一夫 〒一七六〇〇〇二

練馬区桜台四の十一の二

電話・FAX 〇三(三九九一)三五八六

高校二十一回 昭和四十四年卒)

同期会便り

石神井二十一回生の皆さん、お元気ですか?

私、佐久間です。たまたま同期会の発起人になり、過去二回、会を開催いたしました。第一回は平成六年六月、吉祥寺にて約百三十名が集まり、盛大に行いました。二十五年ぶりという人がほとんど

興奮しているだけで、アツという間に時間が過ぎてしまいました。

担任の先生方も皆ご健在で、当日は六名の先生方が駆けつけてくださいました。

第二回目は平成八年十月に行いました。少し余裕が出て、歌を歌ったり、ゲームをしたりと楽しい時を過ごせました。十名前後の方が、その都度準備に協力いただいております。準備の段階でワイワイやっている時から同期会は始まっているのです。

次回は西暦二千年、学校で開催する予定です。それまでに名簿も整備したいと考えています。不明者・転居者など情報がありましたらご連絡ください。また準備のお手伝いの出来る方も一報ください。(写真は第二回の時のH組、I組と先生方)



中学二回の高山さん、神恵内村長に七選

TOPICS

神恵内村長に

高山氏が7選

【要約】任期満了に伴う練馬区神恵内村長選挙は十日告示、同日午後五時で立候補の届け出を締め切った結果、現職の高山一夫氏(たかやま・かずお)が7選、同氏の無所属派の七選が落選した。



(たかやま・かずお)村長(神恵内村長)東京都立石神井中学校 本誌同僚が落選した。

佐久間 利和

電話 〇三(三九九七)〇八五八(夜)

〇三(三九九三)四四三五(昼)

FAX 〇三(三九九三)四四三八

石神井 カップル ご紹介



私の結婚生活

岩田英磨・愛子(旧姓三輪)

(高十三回)



広い世間を見てからでも遅くはないのに、との忠告を無視して社会に出て間もなく待ち切れない気持ちで結婚、既に三十年が経とうとしている。相手は毎年組替えがあったにも拘わらず三年間同じクラスにいた彼女。世間では離婚が目立つ中であ

くもったものだと思う。

この忠告をしてくれたのは同じ石神井高校卒業八期生の義兄の岸田卓也で、実はこの義兄も妻の姉(三輪葉子)と同級生同士の結婚をしており、実体験に基づいた親切な忠告を下さった訳である。

更に私の妹(酒井美智子、石神井卒十五期生)の次女(酒井幸子、同四十二期生)も同窓の泉童幸君(同三十八期生)と結婚、現在二人の子供がいる、不思議な巡り合わせである。

私の高校生活はテニスに明け暮れ、彼女は音楽室に入り浸り、三年間同じクラスに居ながらあまり接点がなかったが、卒業間際のグループ旅行がきっかけで交際が続き、結婚へと発展した。

丸の内へ勤めるサラリーマンとしての生活は見た

目以上のハードな仕事ゆえに身の危険を感じ、会社を飛び出し、八ヶ岳山麓の原村ペンションを開業し、既に十八年になる。色々と屈折もありながら何とか続いている。あのままサラリーマン生活をしていれば妻はのんびりした生活ができたかも知れない。しかし私はある日ポツクリいつてしまうかもしれない。ペンションを始めたばかりに、私は元氣になったが、妻も子供も必死に働かなくては、妻にとってはどちらの人生が良かったのか、まだ明快な答えは聞いていない。しかし、大自然の中での変化に富んだ毎日の生活、多勢の様々な人達との触れ合い、サラリーマンでは経験できない事も経験できたと思う。身体を持つ限り続けていきたいと思っている。

仕事に疲れ息抜きをしたい方、都会の喧噪からしばらく逃れたい人、家族と新しい経験をしたい方、是非一度いらして下さい。石神井の事、都会と地方の生活、等ゆつくりおしゃべりでも出来ればと思います。

山荘と結婚カップルについての考察

道家正昭(高二十一回)

石神井生同士が結婚するケースは、同期の場合クラスが同じだった。一緒に石神井高校黒菱山荘(以下山荘という)に行った。先輩後輩の場合はクラブが同じだった。山荘に行ったら一緒になった。だいたいこのようなケースが多いと思われる。両者に共通しているのは山荘を媒介にしたケースである。

と言う訳で、山荘と石神井生の結婚について考察してみることとする。山荘には夏は登山やハイキング、冬はスキーと卒業生がやってくる。新しい出会いが生まれる。

山荘の生活の基本は共同生活である。部屋は大部屋、食事の用意から調理、後片付け。山荘内の掃除はトイレまでやらねばならない。これは山荘に泊まる者の義務である。冬の間は吹雪などで小屋の外へ出られなくなり一日中小屋に閉じ込められることも

ある。夜は夜で酒をのみ一晩中語り明かすことになる。都会では考えられないほど親しい人間関係が生まれるのである。そうこうするうちに出会いが次の段階へ発展して行く。まあ、同じ釜の飯を食いともに暮らせば同性ならば友情が、異性ならば愛情が生まれたとしても少しもおかしくない。

山荘で知り合い東京に帰り、お付き合いをしてめでたくゴールインしたカップルは非常に多い。私の知っている同期だけでも両手で数え切れないほど、期が違えば星の数ほど(少し大袈裟だが)いるのではないだろうか。皆さんも周りを回視してみてください。必ず山荘を媒介にして結婚したカップルがいまから。特に結婚カップルの発生率が高いのが小屋番OBと小屋番OG、小屋番OBと泊りに来たOGが結婚したケースである。

ところが長い年月のうちに、夫婦の出会いが山荘であったことを忘れている人もいる。石神井生の伴侶を持つあなた、もう一度出会いが何処だったか思い出してみてください。

そもそも山荘は絶好の舞台装置である。昼は白馬三山が目の前にそびえ大自然の雄大な景色に大感動。夜は夜で夜空に満天の星が輝き、あたりは真っ暗闇。冬ならば小雪が舞う白銀の世界。花火が打ちあがり、たいまつが燃えあがる。絵にも描けないロマンチック状況が出来上がるのである。(となりで酒のみ過ぎてゲーゲーやるオジャマ虫も出現することもあるが)

我が同期のW君の場合は、奥さんとよく一つの寝袋に二人で入っていたものだ。先輩のHさんは、夜な夜な真っ暗にした小屋の中で怪談話が終わつてみると二人だけどこかへいなくなったりして。スキーを教えるH君は吹雪の中で手取り足取りフルコース料理を作っていたKさんはすっかりだんなさんをつかまえた。

かくして、山荘は北アルプスの大自然とふれあう場を作るとともに、多くの石神井生にとって人生の伴侶を見つける場を提供してきたのであった。



石神井倶楽部で
Let's Have a Party!

懐かしい顔・楽しい語らい
クラス会・同期会をサポートします
都内8店舗直営 城和裕(12期生)

03-3403-3461 レストランあおしま青山店
〒107港区北青山1-2-3(新大塚1481)地下鉄青山一丁目駅一

土日祭日貸切可

校歌祭に集え!

東京校歌祭へ集まれ

平成九年九月二十日秋晴れの「日比谷公会堂」において、第五回東京校歌祭が開催されました。我が石神井高校同窓会は、同窓会長高橋 勇氏、校歌祭実行委員長田村典夫氏をはじめ、総勢二十六名の参加を得て、晴れのステージに臨みました。

母校紹介で、高校二十回の高橋が若干トリ気味ではありましたが、校歌は練習の成果により、うまく行ったと思います。

この校歌祭は、年を追うごとに盛会となり、本年は二十三校(対前年二校増)の出演があり、また熱唱が続き、予定を一時間ほどオーバーして十八時頃成功裡に閉会となりました。

他校は、オーケストラやブラスバンドを動員するなど、多種多様、趣向をこらしておりました。一方本校は、動員数・演出面において、課題を残したと思っています。

本年も、東京校歌祭は十一月一日に開催が予定されており、多数ご参加いただき、「おお、石神井!」と歌ってみませんか。

文責・高橋一夫(高二十回)

お問い合わせ先

♪♪♪
高20回 高橋一夫
03-3991-3586 (自宅)
高27回 板谷方彦
03-5216-7346 (会社)
歌に自信のない方も
大歓迎です。

東京校歌祭とは

東京校歌祭は、平成五年に旧制ナンバースクール(府立一中、二中といった呼称)の校歌を歌う集いとして発足しました。本校は旧制府立十四中であり、校歌祭の実行委員会よりお誘いを受けて第三回より参加しています。現在は旧制の市立、私立中も加わり、昨年は全二十三校参

加で日比谷公会堂において盛況の内に幕が降ろされました。旧制中学というと、破衣破帽のパンカラが売り物のように思われますが、この校歌祭は単に校歌を歌うだけでなく、各校ともブラスバンドの参加や応援歌の披露など、それぞれに趣向を凝らした楽しいイベントとして盛り上がりを見えています。同窓生のみならず、校歌祭に参加して、石神井高校歌を高らかに歌いませんか?

越智税務会計事務所

税理士 越智 文夫

〒一七一〇〇三三
豊島区南池袋三の二六の八
近代グループビル5階
電話 03(39987) 5301
FAX 03(39987) 7889



昨年の第5回校歌祭・やっと20名を越えた参加者が集まりました!

石神井名物体育祭 応援団関係者 集合せよ!!

(校歌祭に向けてのアピール)

「泣けたぜ」
「力出し切った」
「つらかったけど、一番の思い出だった」
「これが石神井の体育祭だあー」

人、それぞれの体育祭があったはずだ。
若い力を出した。感動もあった。
時代とともに各団の応援歌が生まれ、歌われた。
その時、歌はまさに「こころ」であった。

あの頃を思い出して、応援歌を歌わないか!!
第一応援歌(自然の王者)を歌うチャンスがある。

三年前から、我が同窓会も東京都校歌祭に参加して来た。
今年は、校歌の他に是非、第一応援歌(自然の王者)を歌いたい。

会場は日比谷公会堂だ。
日時は11月1日(日)だ。

友達に声をかけて集まれ。本番に
備え事前練習も行う。

インターネットを開けばわかるように
しておくから、
ヨ・ロ・シ・ク



老若問わず
また、応援団経験
者以外も大歓迎

平成10年度事業計画案

- ☆会報「きずな」第47号をカラー印刷にします。
- 全会員に配布する会報が、同窓会会員との唯一の「きずな」なので、一層の充実をはかる。
- ☆総会後の懇親会を、本年も開催します。
- ひとりでも多くの参加がえられるよう、例年通り実行委員会で取り組んでいく。
- ☆第6回「東京校歌祭」への参加
- 多数の会員の参加を待っています。他校に遜色なく氣勢をあげてアピールしましょう。
- ☆インターネットのホームページを充実させます。
- ☆黒菱山荘の三者協議は継続します。
- ☆同窓会名簿(1999年版)の発行準備に入ります。
- 各期幹事さんに、会員住所の把握をお願いいたします。

平成10年度 会計予算案

1	収入の部	6,018,451
	繰越金	517,451
	入会金	1,500,000
	年会費	4,000,000
	雑収入	1,000
2	支出の部	6,018,451
	運営基金積立	0
	A. 総会費	900,000
	B. 本部費	300,000
	C. 幹事会費	200,000
	D. 広報費	1,400,000
	E. 発送費	2,000,000
	F. 行事費	250,000
	G. 山荘費	650,000
	H. 予備費	318,451
3	差引残高	0

会費納入のお願い

同窓会の運営は、会費によってまかなわれています。全会員への会報発送費だけでも200万円の予算を計上しています。会費納入の振込用紙を紛失などの場合もあるかと思います。下記の方法で会費納入への格段のご協力をお願いいたします。「きずな」と同封の振込用紙で郵便局からお振り込みいただくと、お名前を書き込む必要がなく、振込手数料は同窓会負担になるので、最も簡単です。

同封の振込用紙を紛失された場合、下記の方法で会費をお振り込みください。

◎郵便局をご利用の方

(用紙は郵便局備え付けの青色を利用)

振替口座00170-6-50972

名義：東京都立石神井高校同窓会

◎銀行など金融機関をご利用の方

さくら銀行武蔵関支店 普通 6516437

名義：同窓会 高橋勇 (ドウカワイ カンパイヤム)

☆ ☆ ☆

どちらの場合も、振込手数料をご負担ください。

会費は年・2,000円です。

また整理の都合上、振り込み人のお名前のあとに、卒業期か卒業年を書いてください。

(例：花咲 太郎 高5、花咲 花子 30年卒)

定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第9条の平成10年度定期総会を下記のとおり開催しますので、召集いたします。

平成10年4月吉日 同窓会会長 高橋 勇

記

日時：平成10年6月13日(土) 午後2時より

場所：母校会議室

議事：第一号議案 平成9年度事業報告

第二号議案 同 会計収支決算報告ならびに会計監査報告

第三号議案 平成10年度事業計画案

第四号議案 同 会計予算案

備考 ☆役員は任期中なので、選任議案はありません。

☆総会終了後、恩師先生方にも加わっていただき、懇親会を持ちます。

平成9年度会計決算書 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)

	予算	決算	増減	備考
1)収入の部	6,415,779	6,691,715	275,936	▲は予算より減
7.繰越金	414,779	414,779	0	
イ.入会金	1,500,000	1,605,840	105,840	320人
ウ.年会費	4,500,000	4,452,910	▲47,090	2,264人
エ.雑収入	1,000	218,186	217,186	広告収入・寄付
2)支出の部	6,415,779	6,174,264	241,515	▲は支出増
運営基金積立	500,000	500,000	0	
A.総会費	900,000	985,530	▲85,530	懇親会助成
B.本部費	400,000	240,518	159,482	会議、庶務、慶弔
C.幹事会費	300,000	300,000	0	会議、懇親会助成
D.広報費	900,000	966,310	▲66,310	きずな46号編集印刷
E.発送費	2,000,000	1,837,185	162,815	納入用紙、郵送
F.行事費	300,000	244,121	55,879	東京校歌祭
G.山荘費	600,000	600,600	▲600	
H.予備費	515,779	500,000	15,779	運営基金積立
3)差引残額	0	517,451		次年度へ繰越

上記の通り、平成9年度の会計収支を決算して報告いたします。

平成10年4月8日

会計 川口 弘

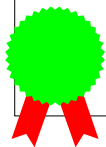
小野塚 直子

上記の会計決算を監査した結果、適正であることを認めます。

平成10年4月8日

会計監査 道家 正昭

濱崎 隆光



ご案内

同窓会の懇親会にお越しください!!

本年も、同窓会総会に引き続き、懇親会を母校石神井高校で開催します。今年も好評のビュッフェスタイル。より多くの同窓生の参加が、より会を盛り上げます。懐かしい顔を見に、お誘い合わせのうえご参加ください。

日時：平成10年(1998)6月13日(土) 午後3時から5時

会場：母校・石神井高校の多目的ホール(当日案内を表示します。)

会費：1,000円(懇親会飲食費用として)

※本年度同窓会会費(2,000円)を未納の方は、当日会場でお支払いいただけます。お釣りのないようにご用意ください

今年の企画内容

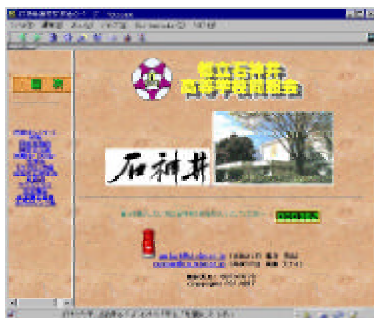
- ・各年代の恩師をご招待いたします。
- ・豪華ビュッフェと飲み物をふんだんに用意します。
- ・ビンゴゲームで盛りだくさんの賞品をご用意。
- ・校歌・応援歌を合唱(?)します。
- ・年代別テーブルを設定します。
- ・西暦2000年の母校60周年に向け、府立14中、石神井高の歴史を展示します。
- ・現在の母校の様子を紹介します。



盛りだくさんの企画もありますが、なんといっても主役は懐かしい顔、顔、顔です。
より多くの同窓生の参加をお待ちします!!!

石神井高校同窓会ホームページのご紹介

新URLは<http://www.shakujii-club.gr.jp>



期待ばかりが先走りしていた同窓会のホームページですが、本年度から自前サーバによる運用を開始します。データ容量に幾分余裕が出ましたので、同窓生の方々の情報発信のスペースとして、その一部を開放できる予定です。単に連絡を行うだけでなく、同窓会のWebページとしての企画やアイデアがありましたら、どしどしお寄せください。なお、ページの作成・保守は高瀬スナオさん(高32回)にお手伝いいただいております。校歌や「きずな」バックナンバーの抄録、といったコンテンツに加えて、近況報告のフォームなども用意します。

なお、このコーナーでご紹介している「黒菱山荘委員会」などのホームページは、同窓会ホームページからリンクをしています。

個人ページを開設している同窓生の方も、URLナンバーをお寄せ頂ければリンクしますので、ご連絡をお待ちします。



吹奏楽部OBの「Club石吹」

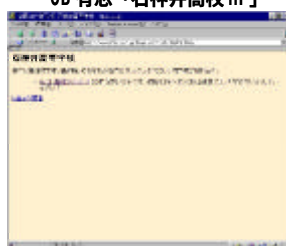
石神井高関連ホームページ



「黒菱山荘委員会 HP」



OB有志「石神井高校 HP」



秋山さん(高20回)のリリース

連絡先 板谷 (amjack@st.rim.or.jp)
高瀬 (sunsun@ca.mbn.or.jp)

青春の石神井・パノラマ写真帖



▲昔より、道は広くなり歩道も出来ました。塀が引込んだわけです。以前は校門の中側にあった木が、門の外側になりました。

母校のグラウンドから。ひときわ目を引くのが新しい武道練習棟。屋上にプールがあります。 >>>



せっかくのカラーページだということ、何の写真にしたらいいか？ という論議もあったのですが、結局一番同窓生が知りたがっているのは、かつての母校の姿ではないか？ということになり（安易！）写真を持ち寄りました。何十年も母校を訪れていない方は、きっとその変化に驚かれるでしょう。



<<< 懐かしの武蔵関駅南口の現在。40 回生あたりからは、もっぱら北口を利用していた同窓生が多いかも。

オリンピックの女子滑降のスタート台から望んだ黒菱平。さて、懐かしの山荘はどれでしょう。 >>>



なんと言っても、“想い出の関公園”という方も多いはず。改修工事で大分様子は変わりましたが、この眺めはあまり変わらないのではないのでしょうか。 >>>



名簿のデータについて

住所変更、異動の連絡は、ハガキまたは封書で母校住所の同窓会までお願いします。電話では処置できません。

☆

名簿の打ち出しをします

同期会やクラス会を開催するときの案内状発送などに必要な名簿を、各期幹事の方にプリントアウトしてお渡しします。杉本（14回生）までご連絡ください。

〒167-0043
杉並区上荻2-40-4
電話 020-902-9088
または 03-3398-0686

編集後記

「うっ字が小さい」これが今年の第一印象ではないでしょうか。原稿の量と遅れに圧倒され、沈没しそうになりましたが、木村・鶴田のプロフェッショナルパワーの登場で、なんとか出口が見えてきました。プロの編集者は、やっぱり違う。これが今回の感想です。（い）

今回編集の責任をまねがれ、板谷編集長のお手伝いをお願いしましたが、却って足手まといになってしまいました。申し訳ありません。

年間を通じて、会員の方々の情報や消息を責任をもって集積できる体制が是非とも必要だと痛感します。（す）

編集スタッフ

板谷方彦（二十七回）
杉本幹男（十四回）
高橋一夫（二十回）
勝見鈴代（旧姓別所）（二十回）
木村好一（二十四回）
今井幸子（旧姓石黒）（二十七回）
鶴田洋子（旧姓高坂）（二十七回）
カット 朝原麻美子（二十七回）

同窓会紙「きずな」第四十七号

平成十年五月発行

発行人 同窓会長 高橋 勇
発行所 都立石神井高校同窓会
東京都練馬区関町北

印刷所

四の三十二の四十八
03（3920）0831
株式会社文明社
東京都新宿区榎町七九番
03（3203）6617